

# 沖縄のつばさ 南西航空



沖縄の未来のために

耳の痛い話

本土復帰から40年  
沖縄は、  
補助金とコンクリートで  
「本土並み」を  
目指してきた

「本土並み」とは  
質よりも量を優先し、  
平均を目指す、  
という戦略である

そして、沖縄は  
望む通りのものを  
手に入れた

質の低い、平均的な  
観光地である



沖縄観光は  
急速に衰退しつつある

質の低下

単価の下落

利益率の急低下



利益を確保するために  
人件費が大幅に削られ、

沖縄のホテル産業では  
手取り給与12万が当たり前

さらに

事業が「成功」すると転売

投資簿価が上がり  
従業員の負担が増す

従業員は、自分と仲間の  
職と報酬を減らすために  
働かされている

自分の墓を掘るような  
キャリア

質が低下した  
観光地は  
必ず衰退する

滞在日数の短期化

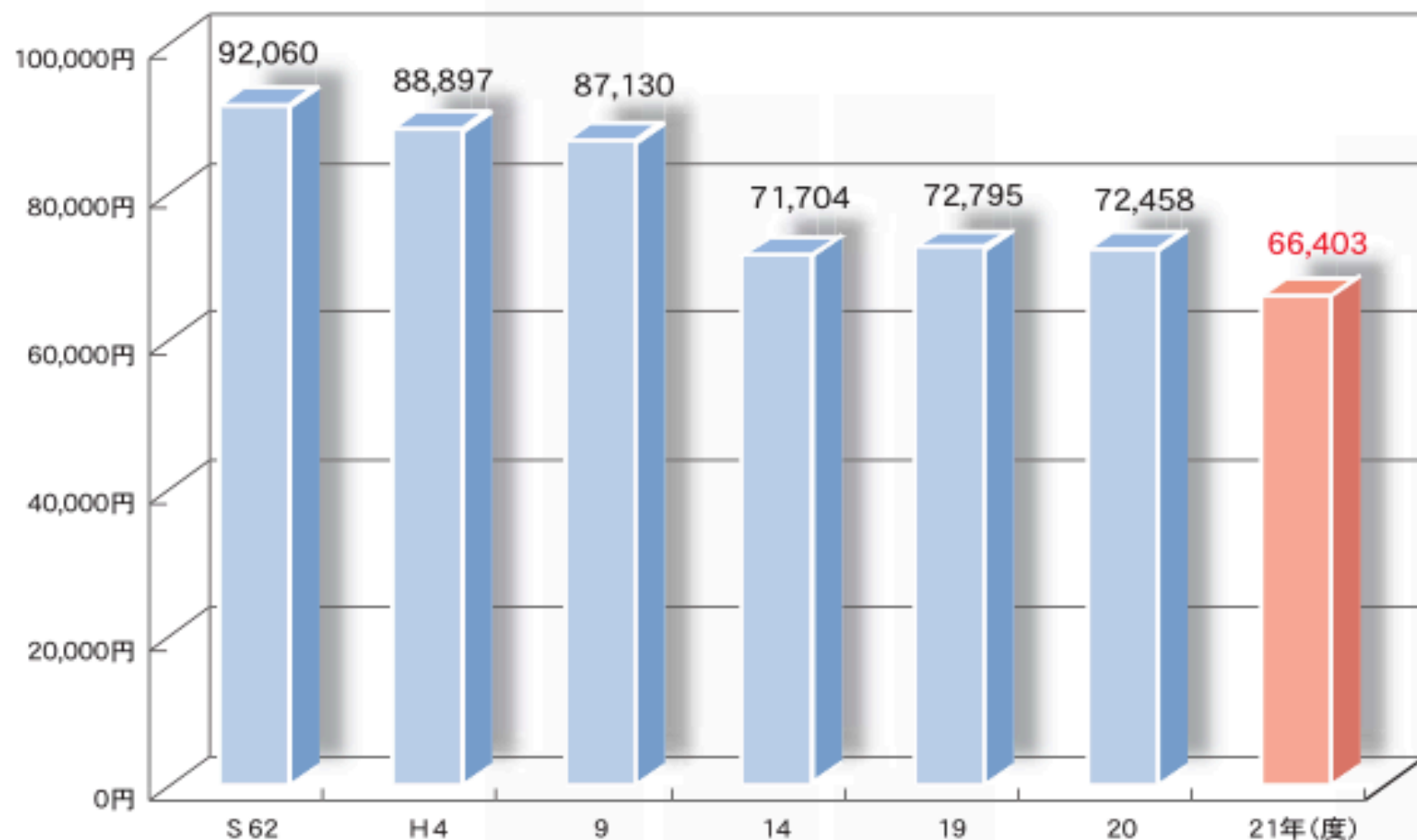
消費単価の減少

沖縄本島観光の衰退

# 平成21年度の入域観光客の消費単価は66,403円

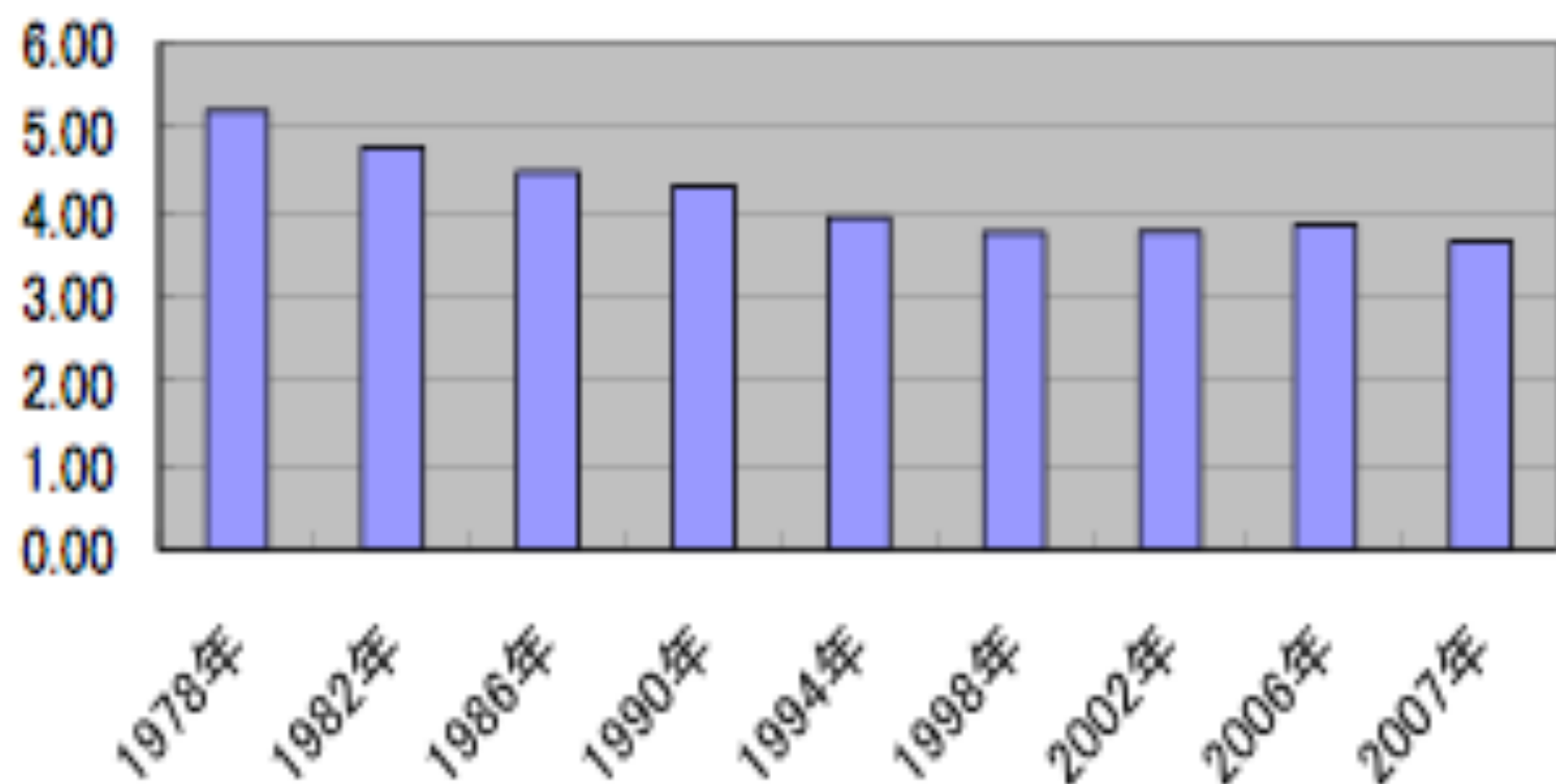
入域観光客(県外客、外国客)の消費単価とは、観光客が1人1回あたりの旅行で県内において消費する額のことであり、宿泊費や飲食費、土産費などの合計金額です。

## ■入域観光客の1人あたり消費単価



注) H19から年度のデータを掲載

図5 平均滞在日数(日)



出所：観光要覧平成17年度版、沖縄県

沖縄の「優良企業」  
の大半は  
経営努力に乏しい  
独占企業



JTA、沖電、銀行、  
オリオンビール・・・

地元企業は  
本当に地域に貢献  
しているのだろうか？

地域から（過剰に）  
受け取った収益は  
一部の既得権者が享受

補助金事業を  
仕事だと勘違いしている  
若手「経営者」

コンサルタント、NPO  
看板は美しいが  
補助金取得が目的

自分の事業よりも  
政治活動に熱心な  
経営者

青年会議所  
商工会議所青年部  
各種業界団体・・・

活動の本質は  
政治運動

OCVBをはじめ  
県の外郭団体は  
実質的に政治団体

能力、適正、人格、実績  
に関わらず  
選挙活動の論功行賞で  
主要ポストが決まる



不景気になると  
努力を諦め  
補助金行政に泣きつく  
業界団体

大量の補助金で  
事業家を  
骨抜きにする行政

創意工夫、自助努力  
差別化、事業戦略で  
苦勞するより楽なお金

フリーライダーが  
蔓延する社会

悪意のないばかり

ノウハウ、商品開発  
事業戦略など  
すべて人任せの  
フランチャイズ  
事業が増殖

沖縄には存在しない  
自立企業、自立人材

①補助金に頼らず

②本土企業と勝負できる

③オンリーワン

自立心がなければ

質の高い事業は  
生まれえない

質の高い事業が  
なければ

質の高い雇用は  
生まれない



質の高い雇用が  
なければ

質の高い生活は  
実現しない

質の低い生活は  
劣悪な食生活を通じて  
健康を蝕む

さらに

質の低い生活は  
質の低い教育環境を  
生み出す

幼児虐待、ネグレクト  
深夜徘徊  
学級崩壊などの温床

教員の鬱、休職率は  
群を抜いて全国一位

基地問題の本質は  
ここにある

最大の問題は  
自立心の喪失

結局、沖縄の自立を  
信じている人など  
誰もいない



沖縄が自立心を取り戻す方法はあるのだろうか？

心の自立とは  
「自分が変わる」  
「自分が行動する」  
ということ

野茂英雄

と

ブラック・スワン

沖縄の心に  
火をつける事業

南西航空

沖縄が  
日航から  
JTA株式を取得

復活:

「南西航空」の社名

オレンジ色の機体

JTAの実力を

著しく過小評価しているのは

当のJTAと沖縄自身である



断言するが  
事業再生は容易である

月曜日が待ち遠しくなる  
会社をつくる

人間関係を  
何よりも優先する  
愛の経営

LCC(格安航空)は  
答えではない

競争戦略の本質とは  
「いかに競争しないか」  
を突き詰めること

価格で勝負  
しようとした瞬間、

あなたは既に  
負けている

売上高利益率5%

5%の顧客が戻れば、  
利益が倍増する  
という意味

那覇を本拠とする  
戦略優位性



世界で最も安全な  
自前の整備

効率の高い  
—機種 (B737) 体制

本土主要都市に就航

既に充実している

国内ネットワーク

沖縄県内路線における  
高いシェア（65%）

売上400億円

50～60億円の経常利益  
を生む力が既にある

10年後：

売上 1,000億円

経常利益 150億円

従業員数 1,500人

雇用創出 5,000人

利益を事業と地域へ  
永遠に再投資

那覇空港をハブとして

日本の地方都市と  
東アジア主要都市に就航





沖縄繁栄のカギは  
「沖縄のため」  
と言う発想を捨てること

繁栄への近道は  
人のために  
社会のために  
役に立つということ

南西航空の活躍で  
日本の地方都市と  
東アジアのアクセスが  
大幅に改善される

「那覇に行けば、  
海外に繋がる」

「日本に行くなら、  
まず那覇に飛ぶ」

日本の地方都市に  
インバウンド観光客を  
送る切り札

日本全国から  
沖縄が感謝される

沖縄来域者数と  
その質を  
圧倒的に向上する



沖縄をエリアで売る

既に、沖縄観光客の  
約半数は離島

国際ハブ展開の収益で  
域内運賃を大胆に下げる

「アイランド・ホッピング」  
という観光スタイル

# 沖縄観光のアキレス腱

平均滞在日数

消費単価

向上の切り札に

県民の足、離島便の  
利便性が格段に上昇

本島・離島間  
格差解消の切り札

赤字が続く  
離島船舶事業

黒字化の鍵は  
海ではなく、空にある

季節変動の高い  
沖縄経済は、

顧客の多様化・平準化が  
高い経済効果を生む

沖縄観光客  
以外の需要を  
取り込むことの  
メリットは、  
非常に大きい

高単価ビジネス客

海外旅行ストップオーバー

インバウンド観光客



空港で長時間滞在

土産物など消費の増加

食材などの裾野産業

南西航空の社員増加は  
もちろんのこと、

裾野の広い分野で  
質の高い雇用が  
大量に生まれる

# 拡張計画中の那覇空港 国際線ターミナル

大量の増床面積を埋める  
事業プランは、  
南西航空以外にない

簡単なことしか  
うまくいかない

JALと沖縄県  
二者が合意すれば  
明日にでも実現する

最大の問題は  
当の沖縄とJTAが  
JTAは日航なしで  
存続できないと  
固く信じていること

それは事実ではない

沖縄と日本の  
次世代社会を担う  
切り札



「オレンジの翼」を  
再び沖縄に

